

## UAE (出稼ぎの国) から帰国して

UAE から帰国して 2 ヶ月余り経ちました。今回は UAE から帰国して、感じる所について書いてみようと思います。帰国して第一に考える事は砂漠についてではなく、アラブについてでも、宗教でも、私の従事した乾燥地での植林でもありません。それは出稼ぎについてです。現在の UAE を特徴付けるのはアラブ・ベドゥインの文化より、オイルマネーがもたらした出稼ぎの多国籍文化です。私にとって UAE での日常生活 (特に私生活) はインド、パキスタン、エジプト、フィリピン、シリア等からの人々とのつきあいでした。オイルマネーは世界中から人々を集め、全 UAE 人口約 240 万人のうち、UAE 国籍保持者は 40~50 万人と言われ、全体の約 20% にすぎません。非 UAE 国籍保持者の殆どが何らかの形で就労する、出稼ぎの人々です。UAE では彼ら (女性も含みます) はあらゆる職種の、あらゆる層で働き、稼ぎを故郷の家族にせつせと送金しています。

出稼ぎの彼らとつきあっているとその陽気さ故に彼らの置かれている状況について見誤り勝ちですが、彼らの多くは国に家族を残した単身です。なかには 10 年、20 年出稼ぎを続けている人も希ではありません。概して日本人より家族思いの彼らにとって、これは一大事です。彼らには故国にとどまり昔ながらに農業を続け家族を養うという選択肢もあったはずですが、一見昔と変わらないのどかな農村風景の広がる彼らの故郷も、世界経済と繋がった現在、農業をするにもその運営コストは昔日と同じではなく、せめて子供くらい学校にやりたいなどと考えると、とてもこの地ではやって行けない事に気がきます。それよりドバイで手っ取り早く現金を稼ぐ方が現実的と考える人々が出稼ぎに出る決断を下すのでしよう。家族思いの彼らに、家族の元を離れずにすむ選択肢があるならば、わざわざ出稼ぎに出る人もそうはいないはずですが。となると、もはや彼らの多くにとって選択肢はなかったのかも知れません。この選択肢がないと言う状況をしっかり認識する必要があります。(彼らの故郷には出稼ぎに行く資金があれば出たいと考える出稼ぎ予備軍が多数控えています。その多くは小作か、期間雇いで食いつなぎながら。)

UAE に限らず豊かな国では安価な労働力の需要があります。途上国の人々の人件費が安いのは、彼らの国が経済的に貧しいからです。彼らの国が経済的に貧しいのは世界市場で有利な産業が育っていないためです。しかしながら全ての国が同じように経済発展すればよいというわけではありません。それぞれの国に、それぞれの発展のかたちがあるはずですが。経済力の差は、時にそれがその国の、ひいてはその国民個人個人の価値だとさえ考えられてしまう感があります。そんなことはないと思う人々は考えるのですが、人件費で見ると、彼らの価値は甚だ小さな物でした。(阿部)



(写真) 農園のパキスタン人 (右) とバングラデシュ人 (左) 労働者  
ローカルの農園主は普段は町に住み、日々の農場管理はもっぱら彼らの仕事。彼らの収入は、月 5000 ディルハム (15000 円) ほど



(写真) 政府系農園のアフガン人労働者  
同じような業種でも賃金には大きな開きがある。政府系の農園で働く労働者の収入は月 1500 ディルハム (45000 円) ほどある。